

2008年5月22日 東海理化企業内説明会資料

1. 挨拶

(ア) 名古屋大学 衣川隆生・土井佳彦

(イ) プログラムコーディネーター 古川智樹・蜂須賀真希子

2. とよた日本語学習支援システムの経緯・概要紹介

(ア) 豊田市は、豊田市に住んでいる外国人、豊田市で働いている外国人の日本語学習を支援するため、今年度から企業内、地域内で日本語教室を開いていく予定です。

(イ) 私たちは、豊田市からの委託を受け、その教室の運営を行います。

(ウ) 東海理化豊田工場でも、6月から8月までの10週間、日本語教室を開きます。今日は、その日本語教室の説明を外国人の人だけではなく、一緒に働く日本人の人にも理解してもらいたく、この説明会を開いていただきました。

3. 企業が日本語教室を開設することの目的と意図(企業側に依頼し、その目的・意図を紹介してもらう。内容としては、以下のようなものを期待している)

(ア) 今回、東海理化の豊田工場内に日本語教室を開きます。日本語教室とは言っても、外国人の従業員の皆さんの日本語を向上させることだけが目標ではありません。

(イ) この教室開設の目標は、日本人従業員の皆さんと外国人従業員の皆さんが、日本語を使って交流することができるようになる工場にすることです。そして、将来的には、この状況が豊田市で、日本人従業員にとっても、外国員従業員にとっても働きやすい工場、働きたい工場にすることが教室開設の夢です。

4. 教室の内容についての紹介

(ア) 平仮名や漢字を一文字ずつ、ことばを少しずつ、日本語の文法を順番に勉強する教室ではありません。それは期待しないでください。漢字を覚えたり、文法を練習しようと思ったら、自分一人でもできますし、1週間に1時間半、せっかく日本人と話す機会があるのに、日本語で自分が話したい内容を話せないのはもったいないと思いませんか。

(イ) また、日本人の方も、急に外国人の方の日本語が上達することは期待しないでください。

(ウ) この教室では、自分の国や自分の家族、自分の友だちや、自分の好きな場所、好きなことを話し合うことによって、自分のことが話せるようになったり、友だちに質問できるようになったりすることを目指しています。具体的には以下のような話題を準備しています。

(エ) 話題

① 自分自身や家族について話す

② 家や家の回りについて話す

③ 毎日の生活について話す

④ 趣味、娯楽について話す

5. 従業員に対する期待・条件

(ア) 東海理化豊田工場が日本人従業員にとっても、外国員従業員にとっても働きやすい工場

にするために、以下の点について皆さんにもご協力いただきたいと思います。

- (イ) 木曜日に教室があります。教室で勉強してから仕事に入る人もいますし、仕事の後で勉強する人もいます。
- (ウ) 一言でいいので、日本人の方は、「今日・きのう、何を話した？」と聞いていただければ、勉強をしたかがあります。
- (エ) また、勉強した人は、聞かれたら「今日・きのう勉強したのは？」と勉強したことを話してみてください。
- (オ) それが、工場内で始まる日本語による交流です。
- (カ) 質問しても、日本語では答えられないかもしれません。また、何を言っているかわからないこともあるとは思いますが、でも、結構、理解してあげようと思って聞いていると理解できるものですし、そういう気持ちが伝わるのが日本語の上達の最大の鍵、動機付けになります。
- (キ) また、日本人、外国人を問わず、上手く言いたいことが伝わらなくても、また理解できなくてもあきらめないで精一杯、伝え合う努力をしてみてください。身振りを使ってもいいですし絵を使ってもいいですし、何でもいいです。会話をつなげようと思うことが上達に繋がります。
- (ク) もう一点、特に日本人の方に注意していただきたいことがあります。日本語の勉強を初めて、すぐに「です」「ます」を使って丁寧な話し方ができるようにはなりません。最初はみんな「きのう何した?」「何食べた?」というのも、毎日、耳にしたりすることばが一番理解しやすく、覚えやすいからです。相手がだれかを考えて、ことばを使い分けるとするのは、かなり上達してからになります。
- (ケ) 中には、そういう言葉づかいを不快に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、そんな言葉づかいでも、話さなければ上達はありませぬ。通じるようになって、次に、上達があることを理解してください。

6. 学習パートナーの募集

- (ア) いままで説明してきたように、今回開設する日本語教室は、日本人と外国人が自分の国や自分の家族、自分の友だちや、自分の好きな場所、好きなことを話し合う交流を通して、わかりやすい日本語をお互いに身につけていこうとするものです。
- (イ) ですから、一般的な会話教室のように、先生が一人いて、学生がたくさんいて会話の練習をする、という形をとりません。日本人、外国人が混じり合ってグループを作り、そこで簡単なことを話し合いながら進めていく形をとります。
- (ウ) このような交流を通じたことばの学習に興味がある方、そして、ぜひ自分もいろいろな人と話してみたい、という方は、「学習パートナー」として、教室に参加していただきたいと思ひます。「学習パートナー」日本語教室で、外国人学習者の方といっしょに「わかりやすい日本語」で会話をしてくださる方のことです。日本語教育に関する知識や経験などは問いませぬ。事前準備なども不要です。相手を尊重する気持ちと相互理解

の姿勢をもって、外国人との交流を楽しみたいという方ならどなたでも大丈夫です。

(不定期も可)

(エ) もちろん、進行役として、システムからプログラムコーディネーターという専門家が入りますので、「ことばがぜんぜん出来ない」とか不安を感じる方でも大丈夫です。ぜひ、よろしくお願いいたします。

7. クラスのレベルの説明

(ア) 入門レベル ← とよた日本語学習支援システムが対象とするレベルです。

① 全然日本語がわからない人や単語でしか話せない人が、わかりやすい日本語を使って日本語が話してもらえれば短い文でのやりとりができるレベルまで日本語を向上させることを目標としたクラス

② Aクラス (入門レベル) 17:15~18:45 (90分)

③ Bクラス (入門レベル) 19:15~20:45 (90分)

(イ) 初級レベル ← 東海理化が実施するレベル。但し、内容は日本語学習システムで考えます。

① 入門レベルが終わった人が、自分自身の力で日本語で基本的な生活ができるレベルの人を対象としたクラスです。

② Cクラス (初級レベル) 19:15~20:45 (90分)

(ウ) それ以上のレベル ← 学習支援の対象外。ただし、日本語を使いたい、日本人と話したい、という人もいます。そういう人は、学習パートナーとして、ぜひ手伝ってください。

(エ) 学習パートナーの人は、手伝ってください。手伝うことが上達にも繋がります。

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7

8. 条件

(ア) カリキュラム向上のために、皆さんの日本語の記録を取ることがあります。ただ、それを勝手には使いません。